おりである。

Trombicula koomori (*Rhinolophus*)*, *Trombicula uchidai* (*Miniopterus*)

尙, 1958 年 2 月 13 日, 滋賀県, 河内の風穴の洞窟中から, ユビナガコウモリ 169 頭, キクガシラコウモリ 5 頭を得たが, ユビナガコウモリ 6 頭から *T. uchidai* 18 個体を採集, ここに *T. uchidai* の新分布地を報告すると共に, 九州に於ける, 宿主選択性の観察を更に裏付けの一資料として附記する。 (九大・寄生虫)

* 括弧内は宿主の属を示す

“K” 群リケッチア症の疫学に関連したアカネズミの病理解剖学的所見について: 松山雄吉 Matsuyama, Y.: Some pathological considerations on Japanese wood-mice, *Apodemus speciosus*, as the epidemiological research of “K” group-rickettsiosis

“K” 群リケッチアの自然界における Reservoir としての役割を演ずるものは, 和歌山県下においては, アカネズミ *Apodemus speciosus* が最も重要視されているのであるが, もし, そうだとすれば, アカネズミはいかなる感染像を呈するだろうかということは極めて興味ある事柄であろう。演者は, アカネズミ剖検に際して腹部内臓等の示す病理学的所見から 1・2 考察を行つたところ, 以下述べるような知見が得られたので報告する。一般に, 体重の小さい, すなわち, Age の若いもの程, 脾腫発見率は低く, 40 g 程度以上の個体になると, その 90 % に脾腫が認められ, 更に脾腫に赤色のものと黒色調を呈するものとがある。脾スタンプ標本によつても, 黒色調のものは明らかに, *Encephalitozoon* その他, 原虫類等の寄生の影響が加わっているものと思われる。赤色のものは恐らくは“K” 群リケッチアのみによるものと判定してもよいように思われる。また, この際, 雌雄による差は認められなかつた。更に脾腫出現率の年間消長を調べたが, 1 月, 4 月にそれぞれ谷(低下)が認められ, これは捕獲アカネズミの月別体重級別百分率の変動とほぼ一致するものと考えてよからう。すなわち, 捕獲作業が体重に関して at random に行われているものとすれば, これはその時期に幼弱鼠(未感染鼠)の増加を意味する。換言すれば, 春秋 2 回の繁殖期の存在を示している。本報告外ではあるが, 実際, それぞれの時期に妊孕鼠を得ている。従つて一般には, 年間, ほぼ同等の率において脾腫が存在するものと解してよからう。このことからアカネズミの“K” 群リケッチア感

染乃至発病像は慢性的傾向, または重複感染の様相を示しているのではなからうかと思われる。

(和歌山県衛研)

四国の恙虫 IV: 山口富雄・福山義彦 Yamaguchi, T. & Fukuyama, Y.: Studies on Tsutsugamushi in Shikoku (4)

四国の恙虫については, 今日までに多くの調査報告があるが, ここには, 松山市城山における恙虫の季節的消長と, 新たに検索した瀬戸内海の小豆島の恙虫を含め, 四国各地の恙虫分布状況について, まとめて報告する。

(1) 松山市内の中心にある城山では, 1956 年 12 月から 1958 年 3 月の間に, アカネズミ 85 頭およびヒミズモグラ 3 頭を捕獲し, キタサト, フジ, クロシオ, ムロト, フトゲ, ガーリエピアおよびカンサイの 2 属 7 種, 総数 9,174 疋の恙虫を捕集した。キタサトは, 年間を通じてアカネズミに附着し, 5,585 疋と最も多数に認められ, 一般に 9 月からその数を増し, 2 月には平均附着数 250.8 疋と最高の山を示している。その他の種類も, すべて定型的な秋冬型の出現状況を示している。(2) 今日までに, 四国およびその周辺地区で, アカネズミ 905 頭, ヒメネズミ 4 頭, ドブネズミ 518 頭, スミスネズミ 5 頭, ヒミズモグラ 50 頭およびモグラ 2 頭, 計 1,484 頭を捕獲した。これらから捕獲した恙虫は, 多いものから, キタサト, フジ, ガーリエピア, フトゲ, コウチ, トサ, クロシオ, ムロト, イチカワ, ミタムラ, アルプスタマ, ミヤジマ, ダイセン, カンサイ, ヤマト, イカオタマ, タナカリヨウ, ミヤイリ, アラトおよび *Acomatacarus* sp. の 4 属 20 種, 総数 52,437 疋である。これら恙虫の中, 特長のある分布を示しているのは, トサが, 恙虫病有毒地を中心に, 海岸地帯に限つてとれていること, アルプスタマが, 東四国で, 瀬戸内海沿岸地帯にだけ分布していることなどである。なお, 四国からは, ヒゲ, タテの両種は, 未だに見出されず, また, 宿主である野鼠に, ハタネズミは全く捕獲できなかった。(徳島大・病理)

島根県出雲, 石見地区における恙虫: 西田弘 Nishida, H.: Trombiculid mites in Izumo and Iwai Area of Shimane Prefecture

島根県出雲, 石見地区における恙虫は未だ充分明らかでない。私は昭和 31 年 2 月より 32 年 3 月までの間に,